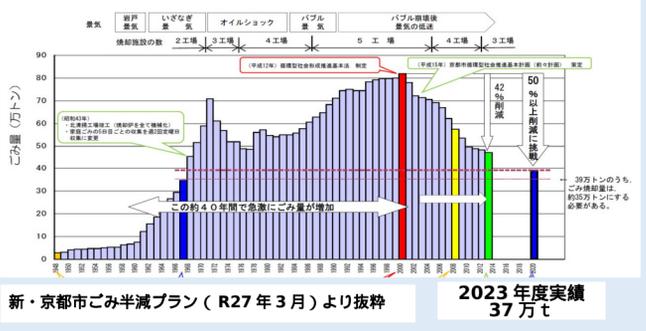


“もったいない”で持続可能な循環型地域社会を実現しよう 《 にはま生涯学習センター SDGs 未来の会 》

【活動の原点】京都市ゴミ排出量の推移



➤ **ごみは社会を映す鏡**
 いつから“もったいない”社会になったのか？
 大量生産⇒大量消費⇒大量廃棄の便利な社会

➤ **資源循環型社会に戻すことで**
 持続可能な地域社会が実現

キーワードは“もったいない”



にはまSDGsプラットフォーム/分科会の活動

『資源循環型地域社会を実現する会』 『生涯学習センターSDGs未来の会』

- 1. 食品廃棄物（食品ロスなど）の削減と再生利用**
 ～地域の社会システムの変革～
 ① 学校給食センターの食品廃棄物
 ② 食品製造会社の食品廃棄物
 ③ 地域全体の事業系食品廃棄物
- 2. 「もったいないクラブ」**
 ～1人ひとりの行動変容～
 ① 公民館・公共施設等で参加者が「もったいない」話し合う
 日常生活の「もったいない」を見直しSDGs
 ② 小・中学校・保育園などのSDGs活動を提案・お手伝い
 ・日常の繰り返し ・成果が見える ・自発的な活動
 ・負担が比較的小さい ・地域の参加

- ### 【活動内容】
- 1. 食品廃棄物の削減・再生利用**
 ～社会システムの変革～
 ① 学校給食 ② 食品会社 ③ 地域の廃棄物
 - 2. 「もったいないクラブ」**
 ～行動変容のための草の根運動～
 ④ 家庭の“もったいない”
 ⑤ 学校の“もったいない”

① 学校給食センター廃棄物の再生利用

対象 食品廃棄物（生ごみ）300～400kg/日
 新居浜市内の給食センター2カ所 約1万食/日（能力）
提言 = 市内の既存施設で堆肥化
 堆肥化することで 学校給食廃棄物の資源循環
 ⇒ CO2削減 食育&環境学習（栽培体験）
 関係部署で運送方法や費用を検討中

② 食品製造会社の食品廃棄物の再生利用

製造工程で出る廃棄物をアップサイクル
 → 新居浜高専（生物応用化学研究室）で
 地元の微生物を採取して培養中
 有益な微生物が見つければ、食品廃棄物を
 アップサイクルの原料として利用

③ 地域の事業系食品廃棄物の再生利用

バイオガス発電の可能性を検討中
 地域内の事業系食品廃棄物
 ⇒ 微生物の働きでメタンガス発酵⇒発電
 ⇒ 売電 or 地域内で利用

(株)東北バイオフードリサイクル
 仙台市 40トンの食品廃棄物を
 メタンガス化して発電
 年間3千トンのCO2削減



④ 日常生活の“もったいない”を見直す

“身近なSDGs”を話し合う
 一人ひとりが出来ることから始める（行動）
 2024年2～5月 会場別に 9回 延べ140人
 同 11月 テーマ別に 3回 延べ50人
 <活動事例> (1) 歯ブラシリサイクルプログラム
 (2) 布ぞうりの制作

「もったいないクラブ」の風景
 参加者が日常の“もったいない”を自由に話し合う



着物リフォーム 買物や調理のSDGs
 コーヒーかすや使い捨てカイロ再利用
 家庭の省エネ（うちエコ）ごみの出し方
 鍋帽子 節水・雨水利用 など

⑤ 小・中学校の“もったいない”

取り組みやすいSDGs実践を提案
 ・自発的な取組み・日常の身近な取組み
 ・活動の意義・成果が見える・負担が少ない
 <活動事例> 「エコキャップ」活動
 ペットボトルキャップを回収してリサイクル
 ・世界の子供たちにワクチンを届ける
 ・ごみ削減 & CO2削減

<エコキャップ活動>
 回収拠点： 学校や公民館など11カ所
 約2kgでポリオワクチン1人分
 キャップ500個 = 約1kg (45ℓゴミ袋 = 約7kg)



資源循環型社会の実現には
 私たち一人ひとりの意識と行動
 “一人の百歩より百人の一步”